

令和4年10月20日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

政策企画課

日時：令和4年10月20日9時30分から11時30分

場所：安芸高田市役所第2庁舎2階 応接室

出席者：上水流委員長、佐田尾委員（オンライン）、牛来委員（オンライン）、本多委員、福岡委員、久保委員、中間委員、永井委員

事務局：高下課長、戸田係長、旭

作成者：旭

事務局

皆さんそろわれましたので、これから安芸高田市の高校と地域の連携強化戦略会議を始めさせていただきます。

今日は、欠席の委員が猪掛委員が、業務により欠席となっている。

それから、佐田尾委員、牛来委員がオンラインでの出席となる。

では初めに、上水流委員長にご挨拶をお願いしたい。

上水流委員長

はい。おはようございます。遅刻して申し訳ありませんでした。

今日は、具体的に高校の方から、ご提案もある。どういうことが、来年度以降可能になるのかということをもとに絞って、安芸高田市にご検討いただくような内容を、決めていければと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

本日の会議は、約2時間程度かなと考えている。

では次に、資料の確認をお願いしたい。

本日お手元に配っているのは、会議次第、資料1：アンケート結果を受けて【吉田高校】、資料2：アンケート結果を受けて【向原高校】、前回の議事録となっている。資料の漏れはないか。それではここからは、議事に入るので、上水流委員長に進行をお願いする。

上水流委員長

それでは、会議次第にしたがって進めていこうと思う。

まず初めに、各高校の方で、校内で協議していただいた結果について、お話をちょうだいしたいと思います。

それでは、吉田高校の久保校長から、よろしくお願いいたします。

(1) アンケート結果を受けての各高校の検討状況について

・吉田高校

この間、安芸高田市の課の方から、このアンケート結果を受けて、高校では何ができるだろうか、

そして、市として何ができるだろうかという点を、まとめといて欲しいということがあったので、向原高校と、様式をそろえる形で、調整をさせていただき、用紙にまとめさせていただいた。

本校では、アンケートの結果をいただいて、運営会議という、学校の公務を動かす委員会、10人ばかりのいわゆる主任層、リーダー層がそろっている会に投げかけて、これを踏まえて、「意見を出して」ということで、集約しながらペーパーにまとめた。

(1) 学校として今後取り組むことを検討する事項

①学力の向上

- ・吉田高校に来る理由として、好きな教科があるから、学びができるからという肯定的な理由
→習熟度別で、大学進学を目指す生徒にセグメントを設けた学級編成をしている。来年度も維持しようと検討している
- ・授業改善・カリキュラムの見直し
→「吉田高校ならではの」という部分を、特色として出すことも必要との議論があった
- ・検定試験・資格取得
→生徒の自己肯定感、社会に出る自信につながる点で推奨しているが、受験者が減っている傾向にあると聞いている。理由として1つ聞いたのが、費用の問題。英検・農業の資格など、メジャーなもので、検定の級が低いと安い、級が上がれば高くなる。数千円どころか5千円とかもある。そこが妨げているのかもとの教員からの感想もある。

②学校行事の活性化

- ・生徒数減少の観点から、部活動の数が少なくなっていく。文化祭のバラエティーさもなくなっていく。体育祭で言うと、生徒の人数が少ないと、種目を設けてもずっと出っ放しで休む暇がない。文化祭、体育祭はコロナ禍を超えても、コンパクトな形を考えている。
- ・生徒会の実働支援
→コロナ禍の中で、生徒の主体的な行動・活動がやや控え目になっている。生徒会が、自主的な活動・行動をしているところを、私が来てから、目立たないとか見えない。今、テコ入れをしているところ。

③部活動の活性化

- ・中学校との交流
→他校との交流に絡めて、中学生に、本校のことを知ってもらいたい。高校生がお兄ちゃん、お姉ちゃんとして、アドバイスするっていうような形で、双方向の交流ということで中学校との交流もあってもよいのかなと思っている。
実際に、吉田高校では、バレー部が千代田の方に行ったり、バスケットが甲田に行ったり、ちょいちょいやってはいる。
それぞれよかったという評価はあるが、コロナ禍でそこも難しいところがあるが、コロナがなければ、こういったところを活性化していきたいと思っている。
ただ、野球部とかできない。高野連か何かの規定があって。やり方を検討したいと思っている。
- ・デジタル機器を駆使する部活動の新設
→例えば、県の東部でいうと、ドローンの競技をする活動で、それから私立でいうとゲーム。そういった、バーチャルリアリティーも含めた部活動があってもいいのかな、どうなのかなと。
本来、本校は、地域・フィールド・リアルなところに出て、地域と繋がる、人と繋がる場所を学習の趣旨としているところで、これを入れることが、どうなのかといったところはあるが、生徒の中には、これなら入ろうかという子もいるのかなといったところではあるが、必要なのかもしれない。ただ、これを作ろうと思うと費用がかかる。マシン、シート、ヘッドホンなど。導入にコストがかかるだろうなと思っている。

④人との出会い

- ・同窓生や地域有識者を招く講座の新設
→吉田高校では、地域のいろんな方を講師にお招きして、いろんな講座を開いている。
探究科の講座の中で、いろんな人材をお願いしている。これはますますと思っている。
名称で言うと、農業の未来講座、それから探求未来講座。それぞれの学科が、地域の人材をお招

きして、実施・実態を見させていただく講座がある。これは継続していきたいと思っている。

夏休み前に、実は、探求未来講座では同窓生 92 歳のおばあちゃんをお招きした。吉田高校の校庭で、女学生の時代に、原爆の爆風が吹いたということを体験された、戦争中を生きこられた、おばあちゃんを広島市内からお呼びして生徒に話しを聞かせた。

これも人との出会いということになるかと思うが、なかなか生徒が、おばあちゃん、次世代に辛い黒の体験ってなかなか話さない。そういったところで、歴史が受け継がれてない部分もあるんだなっていうのを今回感じた。生徒の方が「初めて聞いた、あるのは知っていたけど聞いたことがなかった」と若い職員も含めてそんなことを言っていた。先人の花日を聞くっていうのもいいなと思った。

⑤広報活動の充実

ここは、私が来て一つの使命、ミッションと思っているところ。

どうしても学校の先生方一人一人のスタッフは、学校全般を見て、そして地域と繋がりを持っていったところでビジョンを持たないところ。これはどうしても管理職がリーダーシップを持ってやらにゃいけないと思っている。

・学校 PR ビデオの作成

→今、学校 PR ビデオを、作ろうとしている。これは市からの資金・支援事業を使って外部に委託している。どうしても教員が作ると説明ありきになるため、外部委託をして、若い世代に訴求できる、訴求力の高いプロモーションビデオを作りたいと思っている。できれば 11 月ぐらいには間に合わせたいと思っている。

学校のホームページに YouTube のリンク張って、見てもらうようにできればと思っている。

・出前授業

→学校のことを、中学生・地域に知っていただく機会となっている。

出前授業は、高校から各中学校に対して案内を出して、市内六つの中学校が受け入れてくださっているといったところ。

以前は、ここに生徒も一緒に連れて行って、生徒がアナウンスする・プレゼンするという一方で、生徒同士のコミュニケーションの中で、繋がり感を持っていたが、コロナの中でこれも妨げられている。

⑥校則（指導規程）の見直し

今見直しを進めているところ。

昨年度、ここの学校に来た時に、かなり昔の伝統的な指導をしているなというイメージがあった。生徒の思い・気持ち、現実に沿ったところで、昨年度から少し見直しをしている。

ただこのことを一気に、規則・規定をゆるめたり、変えたりすると、指導というか、形がままならなくなってしまう。そういうことで徐々に徐々にということで、制服のあり方、髪型のあり方、そういったところを見直しをしている。ただ、見直しを進めてるが、なかなか生徒の方がわかってなくて、まだ昔のまんまであったりする。もうちょっと丁寧に教員が説明しなくちゃいけなかったなといったところが反省。

・コロナ対策が緩和された後

・文化祭体育祭は、地域の方をお招きすることができていない

・広島県の公立学校は、すべての学校が海外姉妹校を持っている。

→本校でも、3 年前ニュージーランドに、何人かの生徒が行っているが、それができていないので、これをぜひ再開した。先般、別の用で、生徒を全員にアンケートをとった。「Q:機会があれば、海外行ってみたいですか。」→「A:ぜひ行ってみたい」というものが、9 名、10 名いた。こういった生徒のためにも、そろそろ動きたいなと思っている。

(2) 安芸高田市においても検討していただきたい事項

①学力の向上

- ・公営塾の設置

→放課後補習、夕方～夜にかけての塾的な指導の充実に向けた、時間・場所を持っていただけませんか。これは県内、いくつかの高校でも、すでに取り組みられているところ。

- ・教室のモニター、プロジェクターの設置

→県がどうかという点もあるが、学校によっては、全教室にモニターがあって、パッと映そうと思えば映せる体制が整いつつある学校も幾らかある。

本校で言えば、大きなモニターを、ごろごろ持ってきて映す。そこで教員の準備の時間、たった10分しかないところでそんなことをやるので、ロスがある。本当はそういう設備があると効率的なんだろうと思う。

②行事の活性化

- ・市民文化センター、運動公園の使用料金の免除

→例えば、文化祭でアージュを貸していただけるとか、運動公園を借りる際、その都度お願いすることによって減免をいただいているので、引き続きお願いしたい。

- ・海外交流事業の促進のための渡航費用の補助

→渡航費用、いろんなお金がかかってくる。

行きたいという気持ちを持っている人が、10人はいたが、実際、保護者の方の負担があってといったところで、どうなのかなと思う。

修学旅行に関しても、理由は様々だが、行かない、行けない生徒が1割近くいる。表向き、「お金なんです」って、生徒も言えないし、知らないし、保護者も言わない。でも、幾らか、そのように伺えるものが少なくないかなと思っている。公式なあれではないが。表向きは自己都合ということだが、よくよく調べてみたらそういったこともあるのかなと思う。本校だけの実情ではないと思うが。そういったところもあるので、補助があるとより行きやすい、生徒に声かけをしやすだろうかなと思っている。

③通学環境の改善

バス費用のところ。

④就学支援、生徒確保

- ・パソコン購入費用の補助

→今、広島県内の県立学校は、「BYOD=Bring Your Own Device」ということで、各自自分のパソコンを持ってきてくださいという形で、情報の授業であるとか、コンピューターを活用した授業の推進を図っている。

これは、県、自治体、によって対応は、異なると思う。全県が自分のおうちのものを持ってきてね、もしくは買って持ってきてねっていうこと。大半の方が、高校入学を機に買われる。おそらくご家庭によっては、スマホも新しいものにし、スマホを買い、そこからパソコンも買い。かなりの出費になるろうかと思う。県の方も幾らか補助は出してはいるところだが、このあたりがかなり太いと思う。

皆様方ご承知のように、先般の中国新聞の記事、1週間～10日前載っていた、「私学が人気」と書いてあった。実態として人気という表現がどうなのかなとちょっと思っている。

よく、私が聞くのが、「もうお金は私立の方が安いけ」と言われる。実はそういったところがある。昔は「公立が安い。私立は高くて行かせられん。じゃけ地元に残りんさいや。」という保護者の思い・願い、進路指導があったと思う。今は、私学も補助があるが故に、授業料が変わらない。そして、何が違うかという中学生・中学校・保護者から聞いたのが、パソコンを買い。私学は、

財政的にゆとりを幾らかお持ちのようなので、パソコンはすでに学校にある。買わなくていい。公立に行くと、10万円くらい出費がプラスになる。その差だけじゃないと思うが、その差をいろんなとこ回してもらったら、聞くことがあった。

なので、安芸高田市に、例えばお住まいの場合はということになるかと思うが、中3から買ったっていい。何かそういったところの補助があると、やや違うような気がする。

・下宿先の確保

→年に100人入学するうちの1人くらいは、福山・西条・広島の方からきて、こっちに住む子がいる。その時に聞かれる。今年も2ヶ月前ぐらいに、安芸高田市役所の方に「下宿はあるか」と問い合わせがあったと聞いている。やはりそのときに、市役所も学校も「どうなんですかね」とかっていうのはやっぱりいけないと思う。「こういったところがリストにあるので」ということで紹介ができるとそこらはやっぱり動機になるのかなとも思う。あるといいなと思っている。

⑤教職員確保

教員確保ということで、吉田高校も実は今年度になって、3名の、非常勤、もしくは常勤のものを探さねばならない状況があった。3名のうち2人は埋まっているが、1人がまだ埋まってない状況。

広島県内の公立高等学校においては、どの学校も、年に数人を探すような状況がある。私の前任校で言うと、もっと探した。それは4月に探すのではなく、年度途中の話。4月は10数人探さないといけない。4月には10数人、お願いできませんかっていうようなところを探して、何とか4月をスタートしてその途中でまた状況が変わることによって、3名が必要になるといったところ。これが、安芸高田市ないしは何かこう知縁のある人で、人材バンクみたいなのがあると本当に助かる。このことですごく私は、いろんな大学・他の高校に電話したり、ハローワークと連携したり、ものすごい時間を取られる。探しても探してもいない。で見つかっても、広島市に取られる。こういうことが、多くあって、かなり徒労している。何かいい知恵がありましたら、お願いしたい。

・向原高校

この度、アンケートの実施ということで、本校の運営会議のメンバーのところでもまず共有した。

これまで、このアンケートがない段階においても、本校の大きな課題は、学力をとにかく定着をさせて、進路実績を上げる。これは中学校からの要望が大きい2つ。それと部活動を、活性化してくれというこの3つは、中学校から本校に対して大きな要望として上がっていること。とにかく授業改善をして、学力を付ける。そして一つでも上へというような目標を持たせて、頑張らせて、その結果進路を実現していく、そういった生徒を育てる。

そして、部活動についても、なかなか人数が少ない中ではあるが、生徒が頑張れる環境をとにかく工夫して作っていかうということを口ではずっと言ってきた。しかし、このアンケート結果を見た時に、やっぱり生徒の生の声っていうのが、実感として、運営会議のメンバー主任層になりますけど、見て取れたというところで、考えるきっかけに大きく寄与した。

その中で、本校の生徒は決して勉強が好きな生徒が多いわけではないが、高校に対して期待していることで1番多いのは、学力を身につけること。あと、部活動に活発に取り込めば部活動の活性化、そういったことを生徒が実際に答えている。

そして、学校を良くするために改善して欲しいことっていうところを見ると、通学の改善というのはあるが、授業の充実っていうのが、1番の通学の改善とほぼ同じぐらい授業の充実を望んでいる。

やっぱり学校として、まず押さえないといけないのは、中学校から本校に対して指摘をされている、学力をしっかりつけて、学ぶ意欲を持たせて、進路指導、進路実現っていうところを確実に。高校として当たり前のことだが、ここをまずやっていかうというところでまず確認をしたところ。

先生方から衝撃を受けたっていうのは、クロス集計のところ、授業の充実を挙げているが、学

年が上がるごとに、授業の充実を望んでいる。1年生はまだ十分わかってない段階だったのかもわからないが、それが1年、さらに1年経つうちに授業に対する不満が出てきている。そういった意味で、学校として検討していききたい事項ということをもとめた。

(1) 学校として検討する事項

① 確かな学力の定着、授業の質的向上

これまでやってきた ICT を有効活用したとか、そういった授業改善を進めていきたいというところ

② 部活動の精選・活性化

人数が少ないということもあるので、できる部活動・できない部活動を、思い切って精選していく必要があるのかなと思っている。

・ハンドボール部の充実

→本校の学校活性化地域協議会の中でも話題として上がる。ハンドボール部の充実はかかせないだろうというような意見もたくさん聞かれるし、学校としてもそのように考えている。

ハンドボールを通じた小・中・高校の交流、そういった活動っていうのを今は、湧永製薬の関係者の方との連携もしながら、何とか形にしていきたいということでもちょっと動いている。そういった取り組みを進めていきたい。

・下宿の確保

→これもハンドボールに限ったことではない。公共交通機関が十分整っていない地域からでも本校に通って、ハンドボールをしたり或いは勉強したりっていうことができる、そういったための下宿の確保というのは地域の方との連携の中で今進めている。

なかなか、「下宿やっちゃろう」というふうにまだ確定する段階には行っていないが、1歩手前までは来ている。なかなか難しいので引き続きやっていく必要があるかっていうふうに思っている。

④ 人との出会い

・入学者数の増加

→生徒が共同的な学びをしようとしたとしても、部活動を活性化しようとしたとしても、入学者の数、いわゆる生徒数がある程度確保できておかないと、そういった活動も十分にはできない。

とにかく入学者の増加っていうところを、本校では取り組む必要が当然あるし、やっていきたいと思っている。

・地域との連携による取り組み

→地域の学校として、地域の方と何か一緒に課題を解決していく取り組みっていうのを、今年度から幾らかプロジェクト活動を進めている。人との出会いから、自分の力を高めていく、或いはそういった方から教えていただいて自分の力をつける、そういった取り組みをさらに進めていきたいと考えている。

⑦ 他校・他校種との交流活動実施

・学校間連携の取組の検討、小・中・高校との連携

それと生徒の要望・改善の中に、他校種との交流っていうような思いを持っている生徒も、20%ぐらい、3番目に多いぐらいの数がいた。

向原は、近くに小中高があるというところで比較的連携しやすい位置。そういったところから、こういったところとの連携を、これまでも取り組んでいるが、さらに進化させていきたい。

もう一つ、高校同士の学校間連携、そういった取り組みも、ちょっと今途絶えているが、何らかの形で再開できればというふうに考えている。

⑧ 異文化交流活動の再開・充実

異文化との交流が本校では決定的に欠けてるなというふうに思う、こういった取り組みを進めて

いきたいと考えている。

やらないといけないことは1から8まで挙げているが、どれが一番というわけではなくてどれもしいけないという意味で挙げている。

・本校において取り組みたい事

①姉妹校（ニュージーランド・シンガポール）との交流の本格的な再開

先ほどあったよう、に本校もニュージーランドとシンガポールに姉妹校を持っている。以前はお互いが行ったり来たりとで交流があった。しかし今、全くない。このまま、なくなってしまうのではないかと言うような危機感もありながら、今年度から手紙でのやりとりをちょっとスタートした。関係を、途絶えさせないために、今年度できることからやろうということで、手紙でのやりとりを始めた。本格的に行ったり来たりということが、今後できる時期になったら、すぐできるようにしていく必要があるかなと考えている。

②留学の推進、③海外留学生の受入れ

それと、先ほど吉田高校のところでもあったが、海外へ留学したい、というような生徒もいるというのも声として聞いた。留学のような、そういう機会を充実させていきたいなあとという風に考えている。新型コロナウイルスの関係があるので、ちょっとなかなか、やりたいやりたいだけではできないと思うが、海外で学んだ、その学習の成果を卒業するため、或いは進学するための単位として高校で認定するという制度もある。そのようなものを活用しながら、留学の推進、また今度は、うちに、外国の人を受け入れる、というようなそのような活動を進めることによって、留学生と外国人の方との交流、そういった共同して活動するそういう機会を確保していきたい、必要ではないかというようなことも会議の中の話で出た。

①外国籍を有する地域居住者との交流機会の設定・参加、②英語塾実施・参加

新型コロナウイルスが、まだまだゼロにならない、この状況の中でどういったことができるかなと考えたときに、地域の方の、外国籍を有する方、そういった方との交流の機会、或いは外国語・英語力を、つけるための仮ですけど、英語塾みたいな、そういったものもやってみみたいなというような話も出ている。

そういった異なる価値感や文化、そういったものを有する人との協働する活動っていうのが、徹底的に本校ではかけている。進めていきたいというところで書かせていただいている。

(2) 安芸高田市においても検討していただきたい事項

③国際交流活動の推進

特に3番の国際交流っていうのは、ぜひ、こういったところに、本校ももらえればいいなというようなどころがある。

④生徒確保のための支援

下宿とか、そういった部分の例えば、金銭的な一部支援とかそういったものがあれば、非常に下宿をしようという方に対するところでの支援に繋がるので、いいのかなというふうには考えている。

市の方からいただいた助成金を活用して、現在は、地域との共同活動・共同プロジェクトのためのお金として使用をさせていただいております、大変感謝している。こういった地域との取り組みっていうのをさらに進めていくことと、地域に限らずに異文化というか、海外というようなところも広げていきたいなと考えて資料作成をした。

上水流委員長

はい。ありがとうございました。

それでは、ここからは、各校分けて、協議をしていきたいというふうに思う。20分から30分ぐらいの時間を取ってと思っている。まず最初に、吉田高校について、検討していきたいと思う。

1つでも2つでも、具体的にできるようなことを考えていければと思っている。これに関しては、まずは委員の皆様からちよつとご意見等をちよつといただければと思う。

何でもいいので、まずはちよつと感じた、思うところを仰っていただければと思う。

検討状況を受けての協議（吉田高校）

福岡委員

具体的なアイデアがあるというわけではないが、学校行事の活性化をお話されて、コロナ禍の中で、生徒の実績なアクションが減りぎみだっているところは、生徒の皆さんも、いろんな圧があったらと思うと感じた。「遠足の新設」が書いてあって高校生の皆さんって、どんなところに行きたいんだらうっていうのが私あんまりわからないなと思って、何かちよつと聞いてみたくなったポイント。

どんな郊外での体験を求めているっていうか、どういう刺激を、一番喜んでくれるのか。

久保委員

まず、高校で遠足をやるかやらないか。やっているかやらないか。結構、学校によって分かれている。

高等学校の行事は、大きいのが、体育祭、文化祭、修学旅行。それに加えて、学校によっては遠足。春に大体ある。

遠足と、新入生は新入生合宿っていうのがある。2・3年生が遠足に行つて、1年生が新入生合宿に行つてっていう括りが多かった。そして、もう一つが芸術鑑賞。私の認識でいいますと、私の経験でいいますと、そういった行事があった。

行事というのは集団行動であるとか社会性であるとか、情操っていうか、内面の涵養を図るとか、いろんなポイントがあろうかと思う。

でも、授業時間を確保しなくちゃいけないといわれる時期があつて、その流れから、芸術鑑賞会っていうのはもともとやっているところはそう多くなかったけど、そこらはかなり効いてきた。

一方で、新入生の合宿っていうのは、一時期、パツと増えた時期があつた。15年前～20年前、授業時間の確保とわりと近い時期だが、新入生を、2泊3日、三瓶とか江田島だとか、自然の中に行つて、学校生活の導入部分、学習の仕方であるとか生活規律とかをみんなで学びましょうっていう。それから人間関係を育みましょうというような内容であつたと思う。そういったところで、新入生合宿が始まって、あつた。ただ、年度当初の2泊3日っていうと、意外と教員もまだバタバタしてるし、人間関係も実はできてない。もう一つは費用負担の話みたいなのがあつて、徐々に徐々に減っているところで、逆にやってるところは珍しいぐらい減っている。昔は、ほぼほぼやってた。

吉田高校も2泊3日やっていた。でも、私は、いまだにやってるのっていうちよつと感覚があつた。「それは絶対外出てやらなくちゃいけないの。」という話をしたら、「ぜひ山の子なんで、海を見せてあげたい。江田島のカッター訓練が必要なんです。」みたいな。安芸高田市の方はそうなのかなって赴任当初は思った。今は2泊を1泊にしなさいっていうことで、縮小気味にして、今年度やめた。

内容として、学習のガイダンスは、各教科でやってもいいんじゃないかと思う。そして、集団行動をカッター訓練に偏ることはない。安芸高田に有益に活用できるものはたくさんある。

お金をかける必要もない、生徒同士が人間関係を心配する必要もない、先生の負担もないということで、コロナを半分理由にしたが、一旦やめている。その代わりに、郡山登山、郡山をめぐつて、郡山公園の清掃、ボランティアで清掃して帰るっていうプログラムに変えた。その方が、地域

を知る、みんなで体感できる、お金をかけずに。今言うようなところがあってそういうふうに変えた。

遠足の話に戻るが、遠足は、2、3年の生徒が、今でも県内の方向は、大規模校を中心に結構やっている。

遠足は吉高にはもともとない。市内も含め結構やっているところ多くて、どこに行きたいかじゃなくて、どこに行ってるかという事実で言うと、市内からだ、宮島、アクアス、みろくの里は3大スポット。

私は、能美島に連れて行っていちご狩りをした。

それってね、学年で企画してもいいし、クラスで企画してもいいし、学校によっていろいろやり方がある。海岸公園行ってバーベキューをすとかっていうのもあったり、備北丘陵公園もある。

市内から大体1時間半ぐらいを目安として、大型バスを借りて行く。

古い学校で言えば、〇〇山登山とかあろうかと思う。で、そこに行ってクラスの輪を作って帰ってくるってところが、遠足。

吉田高校は遠足がないが、新入生合宿をやめた分その費用も浮くということで、遠足を入れたらどうかと今、企図している。吉田高校の遠足というのは、すいません歩きません。今考えてるのは、1年生は郡山をフィールドとした学習プログラムできればいいなと思っていて、2、3年生を対象に、サンフレッチェの試合を見に行こうかと考えている。これは、本校にはサンフレッチェのユース生が在籍している。先般8月の20日の土曜、安芸高田市のスポンサーゲームっていうのがあって、そこへ高校生もということでバスは出していただけるということで、声をかけたら40名近く、連れていった。

ほとんどの生徒が初めてだった。来たことあるってのはもうない。行ったことがある子は多分2回3回行くが、ない子は全くないってということで、初めてだという子が多かった。マザータウンと言いながら、こうなのかって。それはコロナの影響なのか、保護者の方が、小さいとき連れて行く機会がなかったのか、それは分からないが、マザータウンを標榜しているところもあるし、ユース生がいるということ言えば、安芸高田市っていうのは一つの市の活性化策としてはサンフレッチェと結びつけが欠かせないところ。そこにある高校としては、それに賛同するというか、ユース生がいるんだから、一体感持たなくちゃいけない。

うちの生徒も意外とユース生がどんな練習してるか、どんな試合に出てるか、どういうふうになんかやってるか意外とわからない。ただ、しょっちゅう県外に出てるってのはわかるんだけど、意外と見ていない。サンフレッチェのユースの、要は先輩が試合をしてるわけですよ、吉高生の先輩が試合をしてるので、それをちょっと見せに連れて行こうじゃないか。

ただ、チケット代が、3000円とか、バス代とか。そこをどうしようかと。

にしても、それで学校の一体感もできるし、いろいろいいかなと思って、それを今、企図してるのが、遠足といったところ。

中間委員

遠足ではないが、リトルマーメイドを見せに行った。芸術鑑賞とは違う位置付けで。実は芸術鑑賞会は、授業時間数確保とかいうようなことから、なしになっていた。そういったところで、リトルマーメイドから、安く見れるというお話をいただいて連れて行った。

ちょっと帰りのバスでコロナが出てしまって、学年閉鎖みたいになったりしたが、それはそれで。

いわゆる生徒たちにとって、我々もそうだが、非日常みたいな、そういった体験っていうのは非常に生徒からの評判というか評価が高かったところがあった。

例えばうちはちょっと今止めているが、芸術鑑賞とかで、日本の伝統芸能とか。これもやっぱり、今を生きる私たちにとっては、なかなか非日常の体験になるので、そういったのは他校でも経験したが、生徒からの、評価というか、評判は非常によい。ちょっと遠足とは違うが。

佐田尾委員

先ほど吉田高校の方からの「公営塾」という話があったと思うが、これはこれからのアイデアということか。

久保委員

正直具体的なアイデアが、ごめんなさい、あるわけではなくて、県内の公立高校でも、数個はある。それから、山陰地方などは、逆に、塾がないがゆえに、高校がやったり、自治体がやったりしている。中山間地域であるとか山陰沿岸部なんかも、そういったところがあるので、それが一つの手かなということで挙げさせていただいている。

生徒の中には、例えば私が、土日に出勤して、仕事をすることがあるが、勝手に学校内に入り込んでくる、勉強しに。補習があれば、来るのはわかるが、家では勉強する気にならないから、学校にこっそり入り込んでいる生徒が結構いる。教室の鍵は閉まっているから、廊下のベンチで勉強したりする。

それから、一つは、学校の先生方は、勤務時間がうちは16時50分、大体17時まで。でも、学校の部活動っていうのはそれより後ろ、それからいわゆる補習っていうのも、進路指導、進学指導っていうのもその後ろの時間帯。いわゆる、グレーゾーンに当たるわけだが、教員の業務改善といったところで、挙げさせてもらっている。

佐田尾委員

私、島根県の出雲高校ってとこの出身だが、島根県立高校では出雲高校とか浜田高校とか益田高校とかには、昔から補習科っていうのがあって、高校の中に予備校を抱えている形。だから、それに近いものがあるかもしれないかと思っている。

あと、公営塾とは別に、自習スペースとして、開放するというのも重要なことだった。

ここ最近、新聞に出ていたが、島根県立大学が浜田市にあるが、浜田高校の生徒が図書館を使ってもいいということになったらしい。そういう、勉強する場、あるいは、予備校っていうかな。何かそういう幅を広げて、何とか全体の底上げをしたいと思う。もちろん、安芸高田市内にも、民間の学習塾は、たくさんあると思うが、そこの調整をしながら、これは実現できたらいいのではないかと思う。

上水流委員長

ありがとうございます。

提案をした具体的な話の中の話になってきているが、他のこと含めていかがでしょうか。今、公営塾って話も出てきているが、他にも何かご意見があればぜひ。

本多委員

下宿先の確保が両校ともあったが、それこそ今、安芸高田市では、空き家が増えている中で、空き家バンクをどういった形で活用するかって話は別の話だが、それこそ地域おこし協力隊の方だとかっていう方がいるので、何かしら、地域とのハブ的な形として、高校と空き家でシェアハウスのようなことができれば、またちょっと流れとか変わってくるのではないかなど。話が逸脱したら申し訳ない。シェアハウスみたいな形のことのできる中で担当者っていう形と、大家さんの人々と、管理的なところを誰かに、やっていただく。

お金の部分とかも含めて、特色ある魅力ある科目の設置っていうところはあるが、今、広島県として、結構インターナショナルなところに、目を向けている高校が非常に多い。できるかできないかわからないが、吉田高校・向原高校・安芸高田市として、ここの公立高校はインターナショナルを目指していこうという企画はもうあげた上で、国の方に、その補助申請ができるような形がとれれば、新しいこと始める大きな流れの、補助が出るような形ができればいい。そういった形で、

シェアハウスとか、結局住むところが必要になってくるの。そうなってくると文化的な関わりや、今、安芸高田市にいる海外の方。過去に牛来さんも言われたように、ちょっと軽くぶっ飛んだことを目標として、予算を引っ張ってこれるような形、あるものを活用するのももちろんだが。今後できるかできないかわからないことに関しても、こういうことがやりたいんだっていうことを、上に上げていく。

先ほどニュージーランドであつたりだとかシンガポールであつたりだとかっていうところと、学校交流があるというところの中で、コロナが開けたらっていうよりかは、実際もう行ったり来たりする環境、向こうで勉強ができたり、こっちで勉強できるっていうような、オンラインを使うっていうのを一つの手段だと思うが、体験するっていうことが大事な部分だと思う。雑談であつたようにアジア圏は、貧困層、富裕層、で二極化していると思うが、その中で新しい海外の状況を目の当たりにするっていうのも、かなりいい経験にはなると思う。

お金の問題があると思うが、そういった中で安芸高田市として受け入れとして、シェアハウスと空き家活用みたいな両立してできるような形が取れば。夢みたいな話ではあるが、何かそういった形がとれれば。もしかしたら市長とかも、こういったことやりたいんだというので、国の方で何か引き上げとかしていただければまた話しは変わってくるかなと。ごめんなさいちょっと流れと話がかわってて。

久保委員

下宿の話だが、今現状で言えば、そんなにたくさんのニーズがあるわけではない。けれども、県内の高校を見たとき、いろんな地域からの生徒確保を求めざるをえない状況。交通の便がそれほど良いとは言えないところがあるので、ある程度ストック確保があると、我々も、いろんなところにパンフレット持っていきやすい。

例えば、残念ながら吉田高校の兄弟で、邑南町に行っている子がいる。あつちは寮・下宿があるから。逆にうちにそれがあれば、邑南町から引っ張れたかもしれない。そこらをちゃんと用意できているかどうかっていうのは、生徒募集にもかかっているんで、下宿先というか、寮的な確保っていうのは、検討があるといいなと思っている。

今、インターナショナルとか申請の話になると、それは目指すところとして多分5年10年ちょっとかかってしまうと思う。その前のステップとして、単なる下宿の機能ではなくて、例えば土日には、畑触れますよとか、土日には、安芸高田市市内におられる外国人と、触れ合うことができますよ、セッションできますよとか。土日には、思い切り田畑に音楽流せますよとか。創作活動できますよとか。高校の下宿先に関して、いろんなところがある戦略をやっている。セグメントをつけるために、安芸高田市の高校の下宿ではこんな体験もできる。勉強だけじゃない、安芸高田市の自然や人材を利用した、こういった、受け入れ先がありますよって、何かメニューを設けてもらって、なんなら六つの町がそれぞれ特色を持って、呼び込む形。何なら大人も一緒に住んでもらってもいいかもしれない。そんな巻き込み方も、市の方策にもリンクするから、これあってもいいんじゃないかなって。

福岡委員

それでちょっとふっと思いついたのが、きらりに住めばいいんじゃないかなとすごく思った。

中間委員

地域の方とお話しをしてみると、下宿っていうのは食事をつくるのが、ネックになる。若い人と、我々の食べる物が違うから、3食用意しないと。

部屋はいっぱいある。そういう中で、部屋があるような一軒家とか、ちょっとアパートっぽいもの、それを格安で出すことはできますというような話もいろいろいただく。ただ、そうなったときに、学校として考えるのはやっぱり生徒指導面。結局、例えば教員が、定期的に時間外に行ったりして何かしないといけない、指導しないといけない。そういう部分もちょっとネックになっ

て、十分進まないところはある。いわゆる、下宿という、生活の場は何とか確保できる。

今年度はうちも、今まで行ってなかったような中学校にも、生徒を来させてください。下宿は何とかなりそうですから、というようなことで、足を伸ばしている。

やっぱり生徒指導面とかっていうのは、どうしても大事になってくるので、トラブル回避も含めて、不動産会社にちゃんと入ってもらって、そういった体制を整えてやっていこうかなというふうには思っている。生徒指導面のところがちょっと今ネックになっている。

牛来委員

知識不足のため、質問なのだが・・・テレビ番組からの情報ですが、島根の隠岐高校の離島留学の特集を見て、その活動が素晴らしいと思った。離島というテーマで同じような環境同士の高校がネットワークで繋がって、情報交換をし、互いの活性化につなげている点が非常にいいと思う。安芸高田市であれば、例えば「里山」、「農業」、「アグリ」などのキーワードだったり、「農業科がある高校」同志で繋がれる高校はないのか。もしくはもうそういう活動をしているのか。なぜこんなこと聞くかという、先ほどの高校からの報告で「(姉妹校?の)ニュージーランドとの交流が今なくなってきている」という現状、また、海外に行きたい生徒が10名だったということを知り、あまりに少ないと思った。海外が難しいのだとしたら、まずは国内でももっともっと繋がれる、刺激をもらえるところもあるのではないかと思ったからである。そのような場に今まで参加されているのか。

そしてここからは地域に下宿が足りないという課題に関わるのだが、里山留学のような取り組みをもし推進するのであれば、全国にそういったところはたくさんあると思うのだが、そういう地域では下宿問題をどうされているのか。安芸高田市における下宿不足の解決法として、1人2人単位だから下宿と言う発想しか出来ずに、そこに課題があるのだとしたら、里山留学を大々的にやって、寮みたいなものを作ればいいのではないかと思う。

また、全国の「グローバルリーダサミット」みたいなものがあるって高校生たちが、自分たちの活動を全国で発表する場があることをサイトで知ったのだが、そういったところにも参加はしているのか。

久保委員

今の最後の質問に答えるとする、本校の探求科の生徒が、探求型の学習を推進しており、地域課題を探求活動によって解決しようとするプロジェクトを、全国的にいろんな高校がやっていて、それが集って発表する、正式名称忘れちゃけども、そういうコンクールというか大会があるんですけどそれには本校昨年度、オンラインという形で参加をしている。大きな場で発表する機会は設けるようにはしているところ。

牛来委員

ありがとうございます。具体的に何か、テーマをともしする、例えば「離島」とか、環境が似ているような地域との、姉妹縁組とまではいかないがネットワークみたいなのはあるのか。

久保委員

中山間地域のって言ったところで言うと、本校が多少なりとも今縁をもって動いてるのが、庄原格致高校。県外ではない。

牛来委員

「全国で繋がる」のがいいと思う。やはり広島県内の近くの高校同士だと、環境や特産品とかいろんなものが近いので活動も似通ってくる。新たな活動に繋げるなら、全然環境の違う北海道とか、それこそ離島・沖縄とか、東京とか、いろんなところと刺激を与え合えるようなネットワークができれば面白いと思う。

というのが、今回アンケート結果を受けての報告をいただいた中で、学力の向上にしても、生徒会の実働にしても課題解決に必要なのは、生徒たちのやる気を引き出すとか、夢を持たせるみたいことが根底にないと、自ら積極的には動いてくれないと思うからである。学習意欲にしてもやれやれって言われても、なかなか沸かない。そういうところで、刺激が必要で、それはどうしたらいいのかを考えた。

佐田尾委員

参考までに、いいですか。

先ほどの里山の高校ということで言うと、「森の聞き書き甲子園」っていうのがかなり昔からある。それぞれ里山で暮らす人達の話が高校生が聞くっていう、全国的なプロジェクト。

これは渋沢栄一、渋沢恵三、いわゆる渋沢家の子孫たちがNPOで主催している。今まで、応募したり、参加したり、両校おありかもしれないが、なければこういうところにコミットするのも、面白いかと思っている。

あと島根県の横田高校はホッケーで、全国から生徒が来て、寮生活しているとか。隣の飯南町の飯南高校には、寮がある。島根県では、もう全国公募している高校も多いので、そういったケースは、あるのはある。それがすべて成功しているかどうかはわかりませんが、横田高校のホッケーはオリンピック級の選手を出していますから、成功事例なのかもしれない。これはちょっと参考までに。

上水流委員長

取りまとめていくようなことをしていきたいと思う。

・インターナショナル、他の山間地域にある高校との交流

→刺激を受けて、学生が、何らかの自主的に主体的に動いていけるような状況を作っていかなきゃいけないんじゃないか。

これは、学力の向上の中の、教育課程の見直し、特色ある科目の設置っていうところに結びついてくるようなお話だと思う。これは正直申し上げて、今からこれやりましょうというわけにはいかない中身だとは思う。これについては、来年度以降含めて、検討できないのかなっていう課題だと私自身は思っている。

学校の中で、そういうカリキュラムの見直してことをどういうふうに考えていかれるのかってことを、今年度来年度かけて少しお話するような場があってもいいのかな。すぐっていうわけにいかないと思うが。

・支援

→地道な支援と、学校の目指す活動っていうものが合わせて必要だと思う。

例えば、先ほどから話題に出てきているのは、下宿先どうするかっていう話は共通して出てきている。

これは今リストを作るってことでリストがあるだけでも違うんだよって話だったんですけども、そういうようなリストを作っていくようなことの作業。

それから、例えば、先ほど言われたパソコンの費用の補助であったり、検定試験の費用の補助。これ非常に地道な活動支援だと思う。こういうところが、例えば、安芸高田市として、支援ができるのかどうかっていうようなことを、ご検討いただくことは可能かどうか一点思っている。

・公営塾の設置

ここに関しても、どういう形がいいのかはちょっとまだわからない。安芸高田市に、2、3塾的なものがあるというふうには伺っている。そういう中で民業圧迫になっちゃいけないとは思いつつも、公営塾ということ考えたときに、例えば大手予備校と連携した授業の提供とか。

他にも様々な形の手段があると思う。それを市としてはできないが、その費用がある程度、例

えば高校にお渡しして、そういうような企画ができるのかどうかということも検討できたらいいんじゃないか。

どういう形かわからないが、高校生の学びを確実なものにしていくっていうようなことですね、そういうような検討ができないかと。

他にも、運動公園の使用料の免除等々あるが、ここは具体的には安芸高田市の中で、揉んでいただいた方がいいのかなと思う。それで、できるかできないかどうかっていうのはあると思う。

大きなところで言うと、今出たような、パソコンや検定試験の費用の補助だとか、それから公営塾の設置というようなことに関する検討。

それから、先ほど言いましたけど、特徴ある教育に関しては、これはもう少し揉むような形で、議論ができればいいんじゃないかなというふうに思っている。

まずは吉田高校さんの議論についてこのような、取りまとめをしたいと思うが、皆様、いかがでしょうか。

通学環境の改善に関しては、以前もこの会議で話題に出て、安芸高田市全体の中で今見直しをいろいろ進めているって議論があった。すぐに増便しましょうとかならないと思うが、この会議を経て、今安芸高田市さんの、交通体系の見直しの中で、どういうことができるのかということは、これは別途、検討していただくっていう形で。

永井委員

今出てないことの中に、教職員の確保というのがあった。これは、小・中学校も、今非常に悩んでいる大きな課題の1つ。

最近の若い方は、手を挙げていただく方もおられるが、「安芸高田市」というと、交通の便が悪いかとか、生活しにくいからということで、断られるという事例もかなりある。年から年中、教員を探さなくてはいけないというのは、県立と全く一緒。従って、この辺りを、一緒になって、人材バンク的なものを立ち上げてというようにできれば、本当に義務と県立と繋がって一緒にというのが、非常に助かる。効果的な取り組みになるかなというのを一つ思った。

それから、先ほどの公営塾。今はコロナで中止したが、かつて国の事業に乗っかって、いわゆる貧困家庭の子供たち、要するに塾に行きたくてもいけないというような子供たちをどう支援するかということで、安芸高田市では「地域未来塾」という名称をつけて、退職校長とか教職員含めて、退職者を中心に、それから一部、文教大学の学生さんあたりへも協力を依頼して取り組んできたことがある。コロナで難しくなったということと、もう一つは、人材がない。募集してもなかなか、協力しましょうとか、務めましょうという方が、安芸高田市の場合は、なかなか見つからないという現状。従って、公営塾で、県立の生徒指導ということになると、そのあたりはどう指導していくか。大学生になかなかアタックできなかったというのが、当時取り組んだ中では、一つの反省としては、持っている。

上水流委員長

ちょっとまたこの部分も含めて後で検討したい。

私自身公営塾の中でイメージを持っていたのはオンライン。今いろんな形で、オンラインでやってきているところもある。例えば、オンラインで向原と吉田高校を結んで、同時に進学に合わせてやっていくみたいなことも検討。そうすると、都市部は教えるプロっていうのがかなりいる。そういう方の活用ってことも考えられるのではないかってのが私の思い。

続いて向原高校さんの議論に移りたい。どんどん言っていた方がいいかなと思うが、公営塾などはもう今までに出ていますのでこれ以外のところで何か、思われるところがあれば、重ならないところでご意見をお願いしたい。

検討状況を受けての協議（向原高校）

福岡委員

異なる価値観や文化を有する人々と、取り組みたいことについて、共鳴する部分があるなど思った。向原地域に、技能実習生の方たくさんおられるけど、高校の生徒さんがいらっしやる時間は、皆さん働いていて、連れて行くことができないなあっていうふうに課題感を抱えてこれを見たりした。

自分で農園を作っている人たちとか、来たばかりでまだ仕事がない人たちとか、国際交流協会には話が来たりするので、そういう時間のあるうちに、高校を訪ねて行くような取組ができたらいかなと感じた。

多分高校生に、手伝って欲しいっていう農園さんとか、簡単な作業と一緒にできるとか、農園に技能実習生がいたり。農園としては、人手が欲しいし、学校に、誰かが行くじゃなくて、学校からその現場に、少人数でも行ってみるみたいなのところに、何かヒントがあるのかなと思った。

上水流委員長

ちょっと私の方から、個人的な意見として申し上げていくと、英語塾の開催みたいなことが書いてあった。県北で英語を学ぶんだったら向原だよねみたいな。そこまでのイメージがいくといいのかないというのが正直な思いとしてはあった。

向原高校で今一つ必要なのは、向原高校のイメージっていうか、どんなイメージを展開しているかが大事なのかなと私はちょっと思っている。吉田高校さんの場合は何か割とそこがあるのかなと思う。向原高校さんは、そこを少し底上げする必要があるんじゃないのかっていうのが、私の正直な感想。その中で、いろいろアントレプレナーシップやってもいいとか、いろいろ今まで言わせていただいたが、今回、高校さんの方から、特に英語っていうところに注目して、国際化っていう中でお話が出てきた。高校さんの意識としてあるのかなと思ったので、そういう意味で言うと、英語は県北の高校の中で、向原高校行くとすごくいい英語の授業が受けられるよねとか、しゃべれるよねとか、そんな印象を持つようなところまで行けたらいいのではないかなと思った。

もちろん中国語、韓国語もあるんじゃないかと言われるが、そこは英語に絞って、受験にも役立つことで、そういうような組み立てはどうかと思った。

牛来委員

今の上水流委員長の話にとっても大賛成で、私も同じこと思っていた。どうせやるんだったら、受験英語もいいかもしれないが、英会話ができるようになる、会話ができるようになるだったら、ここに来いみたいな感じで、町ぐるみでできたら面白いと思う。例えば構内の表示とか、全部日本語と併記して絶対英語も入っているとか。町で、ちょっと英会話が普通に、例えば商店のおじいちゃんおばあちゃんたちとも、英語であいさつができるとか。面白く楽しくやれたらいいなと思った。ニュースソースとしても、注目してくれそうだし、これが成功したら全国から視察に来るのではないかとイメージした。

中間委員

さっき本校の特色というところがあったが、確かに普通科校で、外に発信する特色っていうのが出せてないなと。他の普通科との差別化みたいなのところできてないのは、本当に大きな課題だと思う。

今、私が進めているのは、学校としてやっているのは、地域と連携した、外の力を借りながら生徒の力を育成しようというところで、地域との連携っていうのを特色化しようとしている。なかなかそれが本校の魅力として外へ出せていないというのがあって、大きな課題だと認識している。その中で、英語っていうものを打ち出して、何とかできないかと考えて、実際に学校に来ていただいて説明を受けたり、過去何度かしたが、レベルの高かったり、ビジネスに使えるような英語っていうようなところで、ちょっとうちの学校には難しいなというところでお断りした。でも、さっきご提案いただいたように、地域の方も巻き込んで、ここにいけば英語が学べるとか、そういうよう

な取り組みっていうのは、進めていく必要があるのかなと改めて感じた。

佐田尾委員

これは高校生の年代からしたらどうかなとは思いますが、実は先月、芸備線に乗って酒蔵二つを巡るツアーっていうのに参加した。一つは、三次の山岡酒造の「瑞冠」、もう一つは向原酒造だった。昼から三矢の道の駅で、ブースを設けて、そこで試飲をして、そのあと、蔵に行って、一人で、何でもやっているような小さな蔵で、大変そうではあったが、ひなびた感じで、皆さん、そこでまた試飲をして、楽しんで帰った。

今まで向原高校の方で、向原酒造とどのように接点があったかはちょっとわかりませんし、高校生がお酒のイベントに参加するのは難しい点があるかもしれないが、発酵とか醸造とか、そういう文化に絡めて、向原のイベントとして、その場を使って、そこに高校生が参加できるというようなことをしてイメージアップみたいな。向原地区のPRみたいなことにはなるが。前日、非常に楽しかったもんですから、お話したまで。

上水流委員長

例えばそういうところで、高校生が英語で案内できるとか。英語で、外国の方が来た時にそういうツアーを作ってもらって、高校生が向原の地区を、英語で説明する。つまり英語と結びつけながら学校の活動をPRしていくっていうことをやって、イメージを作っていくことができればいいんじゃないのかなと思った。

中間委員

向原酒造さんとはちょっと連携ができておりませんので、英語のことも含めて、今後考える。

本多委員

先ほどの、日常英会話についてなんですけれども、どこの学校もそうだと思うが、諸先輩方が海外で活躍されている方とか、おられると思う。英会話を習うっていうよりは、なぜ英語が必要なのかっていうところも、認知してもらうような、話しをしてもらえるような環境があれば、英語に入りやすくはなるんじゃないのかなと思う。

とりあえず急に、英会話をしようと言っても、なかなか身につかなかったり、やる気が起きないとかってこともあったりすると思う。そういった現場、海外で活躍している日本人とか、1回講師として呼んで、関わってみる。しかもそれが向原町の人であったりだとか、もしくは高校の卒業生であるっていうところは、一つのポイントかなと思ったりする。

あとは、先ほど話していた蔵元さんとか、あと味噌の和高醸造さんとか、向原町はいろいろ文化がある町。そういったところで連携がとれるような形であれば、多分それぞれの蔵元さんは、もうある程度アピールされていると思う。そこに関わることは全然否定はされないと思う。例えば、その味噌・醤油・向原高校・アグリビジネス科とか、農業に絡んでくると思うので、ああいう形で一緒に連携も取れるのではないかなとか思う。

久保委員

実を言うと、僕は、酒も味噌も醤油も、好きだから、連携取りたいなあとあって、吉田の町を歩いた。つぶれた酒蔵しかなかった。吉田の中は。大体町には、豆腐と醤油と味噌と酒がある。吉田はない。一軒も。

ただ、向原地域まで進出したら悪いなと思って。そこは一応ね、兄弟分として。

本多委員

甲田町に醤油屋さんがあるし、米穀店はちょっとまた違うかもしれないが、高宮とか吉田に豆腐屋さんがあるったりする。そういったところでの文化的な要因であったり、関わり方とかっていう

のは一つとしてあると思う。個人的な見解だが。

上水流委員長

今、一つ出てきたのは高校間の連携という話で、醸造を使ったような場所で、アグリビジネス科を持っていたり、また向原にそういう場所もあったりする点から、連携の話が出た。これはこれで、個別でまた検討していただきたいと思っている。

一つ学校側から出ていることでいうと、英語は非常に重視していてもいいのではないのかなと正直思った。今までに、何回かそういった方を呼んで、ちょっとうまく合っていないところがあったとのことだが、そういうところも含めて、調整していきながら、英会話とか、もちろん英語を学ぶ意義なんかもそうだが、一挙には変わっていかないと思うが、英語を重視していくような向原高校のイメージ戦略を考えながら、いろんな手だてを打っていく。そこに安芸高田市さんがサポートしていけるような体制が作れば、私は一つ理想的なのかなと思った。

あと他にも、公共交通機関とか公営塾は、先ほど申し上げた事ですし、教職員の確保ってことで言えば、安芸高田市さんが中心に動けて、リストがつかれるのかはわからないが、地道なサポートになるが、そういったことも可能なのかどうかというのを、検討いただければと思う。

あと共通したところで議論しなければならないが、私が思ったのは、いずれにしてもこういうことをやっていくときに、前回の会議で、久保校長先生の方から、地方創生推進課と連携しながら、いろいろ人を紹介してもらったっていうお話もあったと思う。今そこが統合されて、政策企画課が引き継いでいる中で、高校に関してこういう活動をするような、コーディネートするような人材っていうのもあった方がいいんじゃないのかなと私自身はちょっと思ったところがある。

つまり、高校の校長先生、高校の先生たちが動くってかなり大変だと思う。授業とか、それから働き方改革がある中で、先生方に負担にならないような形は考えないといけないだろうと。

例えば英語をどうするのかも含めて、学校の中で考えるが、例えばどういうふうに外部、どんな所を呼んだらいいのかとか、その情報を集めるとか含めて、サポートできるような人材が必要んじゃないかなというふうに思っている。そういうところの支援がないと、高校さんだけでってことになった場合ちょっときつところがあるんじゃないかなってのは、共通の認識としては思っている。

佐田尾委員

公立高校をめぐる情勢がさらに厳しくなってるなと思った、具体例をちょっと一つご紹介したと思う。

今月になってから、山口県教委は、宇部西高校が23?24年度、募集停止、廃校を決めた。パブリックコメントでは募ると言いますが、これをやるんじゃないと思う。山口県では最初に総合学科を設けた学校で、現在もその造園コースとか園芸コースとか、そういったものが残っていて、比較的特色を出している学校だったと思うが、これも定員割れで、しかも僻地ではなくて大都市の中での廃校。非常に県内では、衝撃が広がっている。

同時に、田部高校っていう下関の高校と山陽小野田市の安佐高校、これを統合するとか。

一方で、岩国高校と下関西高という両進学校については、中高一貫校にして、中学生が広島の私学に流出しないようにする。それから、北九州の福岡県の私学に流出しないようにすると、そういう、何ていうか、ある種、両面作戦をとっている。非常にドラスティックな例。こういうことは今後、広島県、他にも、波及する恐れがあるとちょっと危惧している。

あと大阪府立高校でも、大阪市内の平野高校というところの廃止を打ち出している。これも非常に、反対が起きている。総合学科を名乗っていたような、先駆的な例にしていた高校を、廃止するという例が起きている。そういうことちょっとお話ししておきたい。

事務局

安芸高田市においても検討していただきたい事項っていうところの絡みだが、まずは、今いただいていた、先ほど上水流先生が言われた、全体をコーディネートするような人が、高校の方でもなく、市側もそういうところのパワー的なところは難しいと思うので、何かそういう新しい事を作っていく、組織のようなものが要るんじゃないかっていうふうなことのお話があったかと。もしそういったことを、この委員会、市として検討するのに、それを市として必要なことと取り組むようにするには、この委員会から、これをぜひやるべきだというふうなそういう形でいただけるとありがたいと思う。

他にも、補助金で、パソコンの購入だったり、それから、海外の派遣とか、新しいことをやったりっていうことについても、「ぜひ高校のうちにこれはやるべきだ」とか、そういうふうな、ご提言を委員会からいただくと、非常に予算化の検討だったり、優先順位も、できればこの中で、つけていただくと、非常にやりやすいなというふうに思う。ちょうど、来年度の予算の関係のことですと、次のこの委員会が12月だったかと思う。タイミング的には、来年度の予算に載せるとすとぎりぎりいい感じに間に合う。ここの委員会の話の様子については、共有をずっとしていくので、概ねこういった方向が出てくるのかなというところを予想しながら、具体のところは、この委員会の皆さんだったり、それから両高校ともちょっと詰めてっていうふうなことじゃないと難しいところはある。そういう方向が次の時ぐらに出していただくと、急ぐやつについては、ちょうど間に合うかなというふうな気がしている。

もう1個、通学環境のところは、政策企画が、市全体の公共交通網のところは担当している。今ちょうど、来年度以降5年間の間でどういうふうに公共交通網を変えていこうかなという、そういう計画をしている。今年はざっくりとした絵姿を作っていくが、来年度、具体的に沿って、交通網を配置していくとするとどうするかなっていうのを関係各所と調整をしながら、再来年度のダイヤ改正とか、大きな仕組みの変更をすれば、再来年度。なので、そこを来年、具体的にどういふふうにするかいいですかねっていうのは、両高校とは、来年のところでお話を聞きながらっていうふうに進められることになるかなと。

市としては、次回のところ、どこに力を入れていくかっていうところを一緒に考えていければ、いい感じで進められそうだなと思う。

久保委員

今のご発言に対して、両高校が出した検討していただきたい事項、これは、我々は行政ではない学校の教員が、素人目線、こういうことなら一緒にできるかなって、よくわからないところで、不安に思いながら書いてるところがいっぱいある、こんなおこがましいこと言っているのかとか。実現可能性がどうなのか全くわからないところ書いてある。だから、できれば、これは市では検討できるけど、ちょっとこれやろうと思うと、随分、時間がかかるから、実現可能性が低いとか、その辺りがある程度コメントいただきたい。

なかなか関係各課の調整とかいろいろ、あるだろうけど、そこらがちょっとないと、それなら行政的にこれなら乗っていただけるんだなって思えば多分、流れが速くと思う。

事務局

それを次回のところでやっていたら、遅くなっちゃうなと思った。関係各課で、ちょっと、これって具体的にどうなのっていうところは少し確認しないといけないところもある。それを聞いて、お答えできる部分は、皆様のところに、情報共有という形で、メールで事前に送らせていただこうかな。

ちょっと個別協議をさしていただきながら、確認をさせてもらわなければいけない点は各校長先生とお話をさせてもらいつつ、できるものでできないもの、ちょっと何年か後にできそうなもの辺りの整理をさせてもらいたいなと思っている。

それをもって、12月予算につなげる部分は今年度こうして、今後整理してくものはこうして、みたいな形で、それをまた12月の会議で、より中身をもんでいただけるような内容にしていければいい

のかなと思っている。

上水流委員長

予算的にも限られてるところがあると思うので、次回の会議の中では、実現できるもので、順番をつけて行って、その中でまた、市の予算を見ながら、取捨選択が入ると思うが、そういうところを、次回の会議で合意できればよいのかなというふうに思っている。そういう形でよろしいか。

事務局

イメージは、今は両高校に対して、やりたいことに100万円っていうのがあるだけになっている。ほかに、こういう要望があるんだったらこういう補助の形もあってもいいのかなっていうのが一つ考えるべきかどうかかなと思っている。

上水流委員長

また随時情報をいただけるということなので、そういう形でさせていただければと思う。

本日の会議の方は以上にさせていただきたいと思う。それではまた次回12月、お会いできればと思う。本日はありがとうございました。

一同

ありがとうございました。